

佐野ゼミの2014年度用ガイド（拡張版）

1 研究課題・テーマ

経営技術論的視点からのイノベーション・マネジメント、技術戦略論

2 ゼミ内容

佐野ゼミでは、学生の自主的勉学活動を重視するとともに、ゼミ生による毎回のプレゼンテーションを基礎としてゼミ運営を進める。

ゼミ生による毎回のプレゼンテーションを重視してゼミ運営を進める。ゼミでの議論活発化やゼミ生としての問題意識涵養のため、指定課題に対して毎回提出する事前レポート(2年次:400字以上、3/4年次:500字以上)に基づき、ゼミでプレゼンテーションおよび討論をおこなう。

1) 2年次の後期ゼミでは、ケース・スタディを通じてイノベーションの基本的理論に関する理解を深める。

具体的には、「ポーターの差異化戦略・コストリーダーシップ戦略・差異化集中戦略・コスト集中戦略との連関」「イノベーションの際に、先駆者(first-mover)として他社よりもいち早く市場参入し製品を投入することにどのようなメリット・デメリットがあるのか?」「1番手としてすぐに市場参入するのではなく、イノベーションから少し時間が経過し市場がある程度の大きさ以上になってから、後発者(follower)として市場参入することにはどのようなメリット・デメリットがあるのか?」といった問題に関して、ゲーム専用機や自動車におけるイノベーションをもとに多面的な視点から議論をおこなう。

またゼミでの議論活発化やゼミ生としての問題意識涵養のため、指定課題に対する事前レポート(授業に出席できる時は400字以上、公的理由で授業に出席できない時は1,500字以上)の毎回提出を義務づける。

2) 3年次ゼミでは、様々な事例に関する理論的分析を自ら行うことでイノベーションに関する理論的理解をさらに深めるとともに、卒論作成に向けた具体的準備を進める。

具体的には、アッターバックのドミナント・デザイン論、クリステンセンのバリュー・ネットワーク論、ロルフスのバンドワゴン効果論、藤本隆宏の製品アーキテクチャ論、クスマノらのプラットフォームリーダーシップ論、ロジャースのイノベーション普及論といった理論に関して、それらの基本的理論概念や基本的発想についての理解を深める。

またゼミでの議論活発化やゼミ生としての問題意識涵養のため、指定課題に対する事前レポート(授業に出席できる時は500字以上、公的理由で授業に出席できない時は1,500字以上)の毎回提出を義務づける。

3) 4年次ゼミでは、卒業論文作成作業を進め、10月初旬には第1次稿を提出する。その後、教員の修正指示にしたがって修正作業を進め、原則として年末までに完成させる。1月には、3年次生等を対象に、卒論の発表をおこなう。

具体的な準備作業としては、卒論テーマに沿ったレポート(授業に出席できる時は500字以上、公的理由で授業に出席できない時は1,500字以上)を毎週1回提出し、教員のチェックを受けるものとする。

3 ゼミにおいて学習する理論および関連参考文献

ゼミにおいて学習する予定の基本的な理論および理論的用語は、下記 WEB ページを参照のこと
sanosemi.info(2013)「佐野ゼミにおける Student Minimum」
<http://sanosemi.info/archives/1011>

ゼミにおける学習内容に関する参考文献は下記の通りである。

アッターバック, J.M. (1998)『イノベーション・ダイナミクス:事例から学ぶ技術戦略』有斐閣
ガワー, A, クスマノ, M. (小林敏男訳, 2005)『プラットフォーム・リーダーシップ:イノベーションを導く新しい経営戦略』有斐閣
クリステンセン, C. (2001)『イノベーションのジレンマ:技術革新が巨大企業を滅ぼすとき』翔泳社
マクグラス, M.E. (菅正雄ほか訳, 2005)『プロダクトストラテジー:最強最速の製品戦略』日経 BP 社
藤本隆宏;安本 雅典編(2000)『成功する製品開発』有斐閣
藤本隆宏(2004)『日本のもの造り哲学』日本経済新聞社

4 募集予定人員・選考試験

10-15 人、簡単な筆記試験および面接試験により選考

5 その他

- 1) 佐野ゼミにおいて 2 年半の間に学習を予定している内容は下記 WEB ページにある。
<http://sanosemi.info/archives/1011>
- 2) 最近の佐野ゼミにおける議論や活動に関しては下記 WEB サイトを参照のこと。
<http://sanosemi.info>
- 3) ゼミ担当教員の授業内容、研究内容は下記 WEB サイトを参照のこと。
<http://www.sanosemi.com/>